

植生の拡大と、湿地・水域部の減少（陸化の兆候）の状況：潟湖の水際の変化

昭和 39 年（1964 年）～平成 12 年（2000 年）までの空中写真を基に、主にヨシ原により形成されている水際から水域と陸域を区分し、潟湖の形状の変遷を示した（図 3-3-25）。蒲生干潟の潟湖の形状は変化しており、特に基点より 600m 付近のヨシ原が島となっていたものが、次第に変化していくことが分かる。

図 3-3-26 では、水際は年による変動がみられ、潟湖方向に移動している場所が確認された。潟湖の水際は主にヨシ群落によって形成されており、水際の変化はヨシ群落の分布の変化を示している。そのため、潟湖周辺のヨシ群落は、潟湖方向へ侵出している可能性がある。

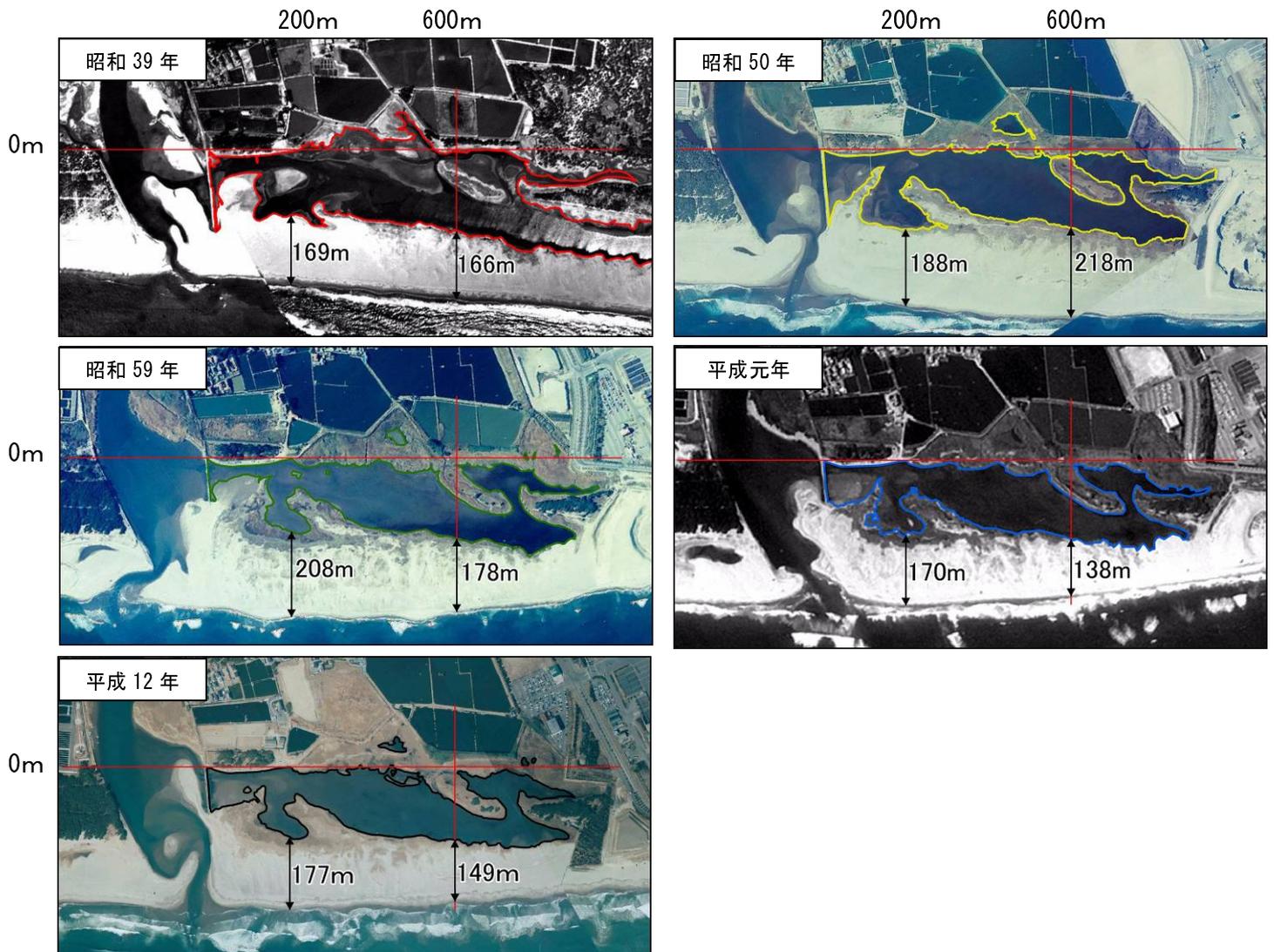


図 3-3-25 蒲生干潟の変遷（出典 10）

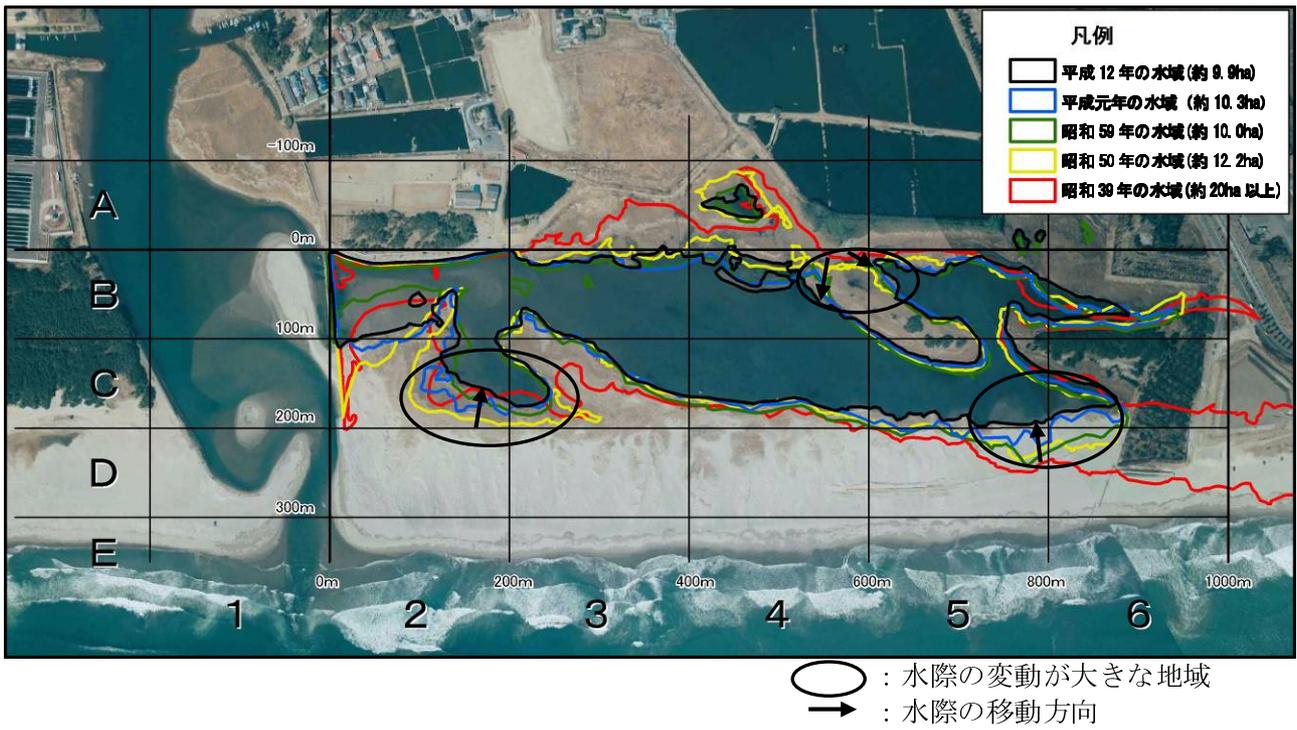


図 3-3-26 蒲生干潟の水際の推移（昭和 39 年（1964 年）～平成 12 年（2000 年））（出典 10）

植生の拡大と、湿地・水域部の減少（陸化の兆候）の状況：植生の変化

- ・ 蒲生干潟の植生は、主にヨシ群落等、ケカモノハシ群落等、砂丘植生散在、自然裸地である（図 3-3-27）。（ただし、H8 年の自然裸地には砂丘植生散在が含まれている可能性が高い）
- ・ 平成 14 年（2002 年）の主な植生であるヨシ群落等、ケカモノハシ群落等は比較的砂が安定した場所に生育する。そのため、現在の植生は、比較的砂が安定した場所に生育する植生が優占していることが分かる。

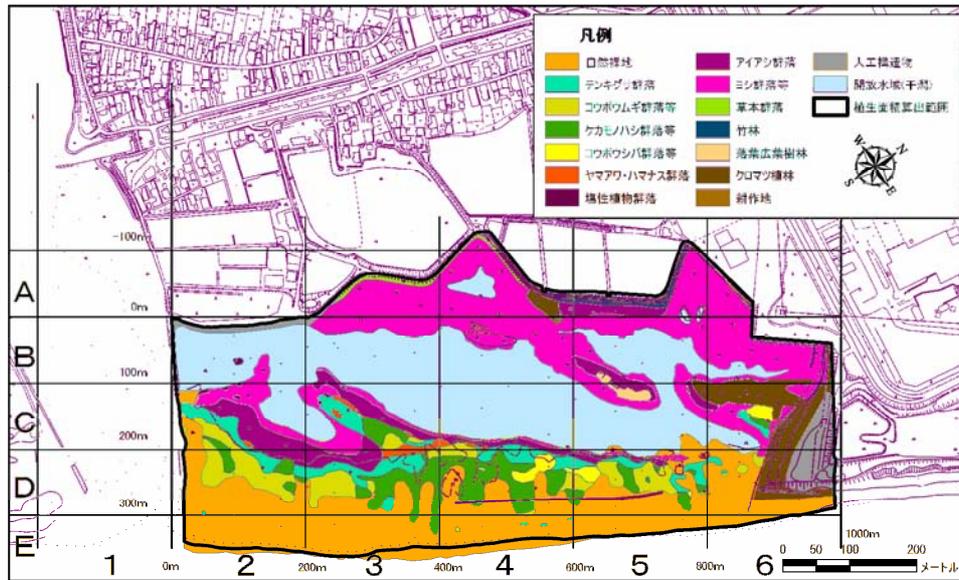


図 3-3-27 潟湖周辺の植生の状況（平成 8 年）（出典 10）

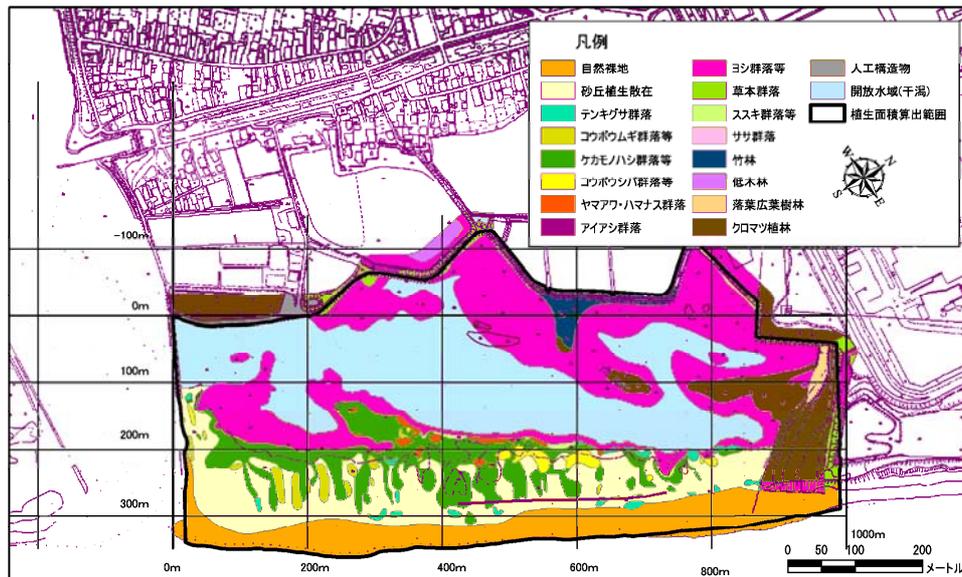


図 3-3-28 潟湖周辺の植生の状況（平成 14 年）（出典 10）